



アジア福音同盟総会（モンゴル・ウランバートル）に集まった参加者・後方はチンギス・ハーン騎馬像

宣教協力を生み出す土台



大竹護
青年委員会担当理事
日本長老教会

私にとって2024年10月は記念の月となります。

10月中旬に私が仕えている教会が会場となり、宣教フォーラムが開催されます。三重県の超教派の牧師会は、県北部で二十数年行われてきましたが、この二年の間に三重の各地で四つの牧師会が発足し、計五つの牧師

会となりました。2023年に行われた第七回日本伝道会議が岐阜県（東海地域）で行われたことも大きな追い風となり、三重県の各地の牧師たちが中心となって宣教フォーラムの準備委員が作られました。準備委員の先生から聞くところでは、三重県で初めての超教派での宣教大会ということです。

牧師会の発足、相互の牧師会の交流、宣教フォーラム開催という流れ。また準備委員の先生方の仕え合う様子を見ますと、宣教協力を生み出す土台の一つは、「良い関係」にあるということがよく分かりました。テーマは「三重で出会える宣教協力」です。宣教フォーラムが良い関係を築く一つのきっかけとなって、集う方々が、互いに励まし合い、支え合い、ともに宣教に取り組むことが出来るようになることを期待します。

10月後半には JEA 青年委員会が一年半準備してきた青年宣教ネットワークが開催されま

す。教会から青年世代が少なくなり高齢化が進むことからくる様々な懸念は、もう何年も前から話題に挙げられています。このように差し迫った状況にあると考えられます。このような時に青年委員会として何に取り組んだら良いのか。改めて検討した結果、委員の皆様が出した結論は、青年宣教に従事している方々が良い関係を築くことを手助けすること。青年宣教に有効と思われる方法を研究するとか、提示するというのではなく、良い関係を築く場を提供すること。青年委員の皆様のご意見を聞くことを通して、宣教協力を生み出す土台の一つは、「良い関係」にあるということがよく分かりました。

青年宣教に従事している方々が集まり、良い関係を築くことを願い開催される青年宣教ネットワーク2024。テーマは「友でとどのう～How to よりも仲間との出会いを～」です。青年宣教ネットワークに集まる方々が良い関係を築くことが、これからの青年宣教にどのような良い影響をもたらすのか。期待し、心から楽しみにしています。

目の前のこと、自分の教会のこと、自分の教団のことに集中しやすい私。JEAを通して、良い関係を築く機会を多く与えられていることを大変嬉しく思い、感謝いたします。

目次

巻頭言	1
宣教フォーラム三重2024	2
Bless Japan・宣教協力プラットフォーム	3
宣教協力プラットフォーム	4
流れのほとりで	5
牧師の書棚 「平和」について考える	6
青年宣教ネットワーク	7
AEA 総会報告 総務局より	8

宣教フォーラム MIE 2024 報告 「共に考え、出会える場」

山下大喜 宣教委員
宣教フォーラム部門
日本イエス・キリスト教団



三重県・四日市に約 200 名が集まった

「三重で出会える宣教協力」をテーマに、JEA（日本福音同盟）宣教フォーラム MIE・2024 が 10 月 14 日と 15 日に四日市キリスト教会（日本長老教会）を会場に開かれました。2 日間、①～⑤のブロック枠で開かれた集会の内容は、講師による宣教の提示とチャレンジでした。その後、小グループでの話し合いと受け取り、また別部屋に別れて分科会、もしくは宣教ブースの自由見学でした。



開催地委員長・近藤健二師

14 日（月）午前のブロック①から宣教フォーラムがはじまりました。講師は開催地委員長の近藤健二師（OM 日本宣教師）でした。午後のブロック②では講師として太田裕作師（アンテオケ宣教会総主事）と安食弘幸師（日本キリスト宣教団峰町キリスト教会牧師）が立てられました。

夜のブロック③では、新しい宣教方法に取り組む 3 名、喜納秀樹師（JCK 牧師、OMS/ECC 日本コーディネーター）、菅原亮師（単立高森キリスト教会牧師）、ともみん（会いに行くキリスト教会牧師、作家）がパネラーとして立てられ、質疑応答の時間がもたれました。その後、分科会&宣教ブースの機会を設けて、宣教のために共に語り合いました。対面出席者は 198 名、オンラインでは 50 名が参加しました。



パネルディスカッション

2 日目、15 日（火）午前のブロック④では、講師の播義也師（保守バプテスト同盟・埼京のぞみチャペル牧師）と佐伯真師（日本ホーリネス教団・高知グレースチャーチ牧師）が実践的

宣教のチャレンジを語られました。昼食時にはランチョンセミナーを金野正義師（保守バプテスト同盟・恵泉キリスト教会米沢チャペル牧師）が担当しました。ブロック⑤では講師として辻本眞悟師（シオン宣教団・金沢グレイスチャペル、富山めぐみ教会牧師）が立てられ、ご自身の証を交えてメッセージが語られました。15 日は対面出席者 145 名、オンライン 50 名が参加。両日とも各 50 名の会場ボランティアの方々が縁の下で大会を支えてくださいました。

この 2 日間、併行して児童の信仰確認と宣教のための子供プログラムが開かれ、安田豊・香代子師夫妻（グレース宣教会牧師、CEF スタッフ）と宮下侑也師（OMS/ECC Japan スタッフ）が奉仕されました。



三重県では今まで超教派の全国レベルの大会が開かれたことがなく、初めての歴史的大会になりました。また開催地委員会も教団教派を超えたメンバーで（カリスマ派、福音派という区別などをしない）組織され、地域的にも三重県内の北部／中部／南部／西部（伊賀）から各委員が集められました。フォーラムの最終目標は日本における宣教でした。そのために宣教協力は不可欠ですから、この大会を通して共に考え、出会える場が主の導きによって設けられたことを感謝します。主の恵み溢れる宣教フォーラム MIE・2024 を無事に終えましたことを報告いたします。（なお詳しい報告は「宣教フォーラム MIE2024」のウェブサイトに掲載されています。ぜひ、そちらもご覧ください。写真も許諾を得て、ウェブサイトから転載しました。
<https://miemission2024.com>）

Bless Japan カンファレンス 2024 報告

永井 敏夫 宣教委員
異文化宣教ネットワーク部門



今から 10 年前の 2014 年 3 月、日本の為に祈る集会が生まれました。在日フィリピン人教会連合（JCPC）の諸教会が都内で集まり、日本の救いを切に祈る集いだった。こうして Bless Japan が誕生した。こうした祈りの中で、時が満ちてエスニック・ミニストリーズ・ネットワーク・ジャパン（EMNJ）が 2018 年に生まれた。以来 EMNJ はアジアや南アメリカからのキリスト者たち相互の繋がりを願い、交わりを続け、年に一度の礼拝を続けてきた。

JCE6（2016 年）でも、日本にある外国語教会との関係作りにも重荷を持った人たちが集められ、祈りの中でミーティングを重ねてきた。JEA 宣教委員会でも異文化宣教ネットワークのセクションが動き出し、上記の EMNJ に協力するようになった。



華人・ネパール教会の合同讃美チーム

このような経緯の中、今回 Bless Japan カンファレンス 2024 が都内のイマヌエル中目黒キリスト教会にて開催された。今年も EMNJ に繋がる外国語教会に参加の呼びかけがなされ、100 名を優に超える在留外国人の方々が続々と集まってこられた。日本福音同盟の水口功理事長が黙示録からメッセージをされ、華人教会チームとネパール教会チームのリードで、一同で賛美をささげた。また、EMNJ に繋がるそれぞれの国々（今回はイラン、インドネシア、ネパール、華人、フィリピン、ベトナム、ブラジル、日本）から祈禱課題が出され、数人ずつグループを作り、一つとなって熱い祈りをささげた。

昨年の第 7 回日本伝道会でのグローバルナイト、そして今回の Bless Japan のような外国語教会の熱き賛美と祈りを通して、主は日本の教会に何を語っておられるのだろうか？日本各地の地域教会と外国語教会とが出会い、繋がり、賛美と祈りをささげていく場面が更に増えていくことを私は心から願っている。



会場に祈りの輪が広がった



国籍を超えた交わりのひと時

JCE 宣教協力プラットフォームの活用について

佐々木 宏光 宣教委員
宣教研究部門
日本ルーテル同胞教団

今回ご紹介させていただく「JCE 宣教協力プラットフォーム」は、第七回日本伝道会議（以降 JCE7 と表記）を機に発足したもので、基盤作成から運用までを JEA 宣教委員会の IT チームが担っております。初期運用は JCE7 参加者のみでしたが、次第に枠を広げていて、現時点（2024/10 末）では登録者は約 1,000 人のコミュニティとなっております。

徐々にコンテンツを拡大化しておりますが、主に福音派の方々が異端に惑わされることなく、自由に発言すること、あるいは意見を交わし合い、宣教の働きを協力し合うこと、様々な働きのために用いられております。

登録することのメリットを紹介致しますと、①福音派キリスト教界の最新情報を知ることができます。11 月から定期的に JEA、JEA 所属の各団体、各地域で行われている諸活動の情報

を入手することができるようになります。②福音派のキリスト者が興味関心のあるテーマでつながることができます。様々なグループに登録することによって、定期的につながりが設けられます。③福音派の中で生じている様々な課題について学ぶことができます。プラットフォームには、毎月 1 回更新される 5 分間の学習サイトが設けられております。現在公開されているのは、東海宣言「おわり」から「はじめる」私たちの祈りの解説です。④ JCE8 に向かうプロジェクトについての進捗を知ることができます。登録方法については、各教団教派、協力団体にすでにメールを送信済みです。ご確認ください。牧師から教団教派の事務局に、そして JEA 事務局で受け付けます（詳細は次ページの全面広告をご参照ください）。

宣教協カプラットフォームで

今こそ繋がる！！

福音的信仰に立つクリスチャンが安心して繋がることのできる、プラットフォームがオープンしました。様々な宣教の活動をチェックしてともに祈る仲間を見つけたり、全国各地にある教会の情報をいち早くキャッチしたりと使い方はアイデア次第！教団・教派を越えた祈りの輪が広がっていくことを願っています。

詳しくはこちらをチェック▶



宣教協カプラットフォームに登録して、一緒に活用しましょう！



- 地域で行われているイベントのチェックに！
- コミュニティや個人間の出会いがある！
- 災害ネットワークとして活用！
- 散在している情報をまとめて確認が可能！
- 都心部教会と地方教会との情報格差をなくす！



- 日本宣教のために共に祈る！
- 各教団、教派、宣教団体の最新情報をいち早くキャッチ！
- JCE8 に繋がるプロジェクトの進捗がわかる！



簡単登録 3ステップ

01

自身の教会の牧師に
登録の旨を伝える！



02

牧師から教団教派事務局を
通じてJEA 事務局に一括
登録申請※



03

登録完了、ID・パスワード
通知のメールを受信したら
さっそくログイン！



※ステップ 02：プラットフォームの信頼性を確保するために必要なプロセスですのでご了承ください。

JCE JCE 宣教協カプラットフォーム管理チーム

第 14 回「心のオアシスリトリート」報告



2024年6月10日(月)～12日(水)、「マホロバ・マインズ三浦」(神奈川県三浦市)を会場に JEA 女性委員会主催の心のオアシスリトリートがもたれました。5年ぶりとなったのは新型コロナウイルス感染症の影響で予定が延期されたためです。その間 ZOOM で「かたりばオンライン」がスタート、女性たちの交わりは続けられていたのですが、今回久しぶりの対面での集会は「顔を合わせて語る」恵みを深く味わう時となりました。

最初に「どんなリトリートにしたいか」を委員で話し合った際に与えられたテーマが「静まり」でした。コロナ禍での心身の疲れや「すべきこと」に追われる日々の中ふと感じる様々な重荷を、主の前に降ろして静かにみ声を聴きたい。主の語りかけを互いに分かち合い、祈りたい。そんなイメージから、「静まり」の集いを導いておられる片岡栄子さんをお迎えすることになりました。

当日は梅雨の季節にもかかわらず素晴らしい快晴のもと、60名以上の方々が日本の各地から集われました。想定を超える人数に講師の栄子さん(と呼ばせていただいていた)も戸惑っておられました。集会室のセンターに花とキャンドル

(電池で炎が揺らめくもの)を置き、その周りを囲んで座ります。窓の外には青い海が広がる会場で、ご自身の証しを交えつつ、ゆっくりと優しく語られる栄子さんの声に耳を傾けました。セッションの終わりはチリチリと静かな風鈴の音で知らされます。みことばを味わいつつ黙って自分と、また主と向き合うひとときは、たくさんの人がいながら驚くほど静かで豊かな空間でした。

その反面、アイスブレイクや賛美、そして「スピリチュアル・コラージュ」(雑誌や写真から、祈りのうちに導かれる絵や文字を切り抜き、自分自身の作品を作ります)、フリータイムなどは楽しい交わりの時間ともなりました。数か月が経ち、慌ただしい日常に戻ったような現在でも、ふとした拍子に風鈴の響きを思うことがあります。栄子さんにご参加くださったお一人おひとり、また「水を汲みししもべ」として多くの任を担われたリトリート委員、祈りをもって支えて下さった皆様から感謝します。

「私のたましいは黙ってただ神を待ち望む。」(詩篇 62:1)



会場の三浦マホロバ・マインズから海を臨む

新女性委員・自己紹介

小野理映子 女性委員
日本福音自由教会協議会

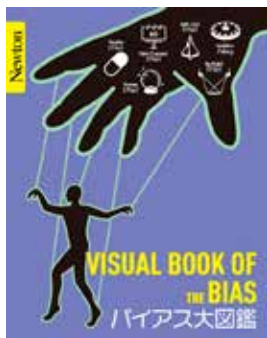
この度、先輩からのバトンを引き継ぎ、女性委員会に加わりました。私が女性の交わりでいつも思い浮かべるのは、マリヤとエリサベツが大きな使命(と大きなお腹)を抱えて、三か月間同じ屋根の下で生活する場面です(ルカ 2:39～56)。年齢差は大きいけれど、主によって与えられたユニークなチャレンジに対する不安と恐れと戸惑いが共通項。ですから、この二

人は、この交わりにどれだけ勇気づけられたことでしょうか。ちなみにこの時期ザカリヤは声を出せなかったから、二人のお喋りは、満開の花を咲かせていたことでしょうか。私も委員の方々と、現代の女性にある使命と恐れを共有しつつ、主の憐れみがあふれ出る泉を共に見出していきたく願っています。

牧師の本棚

『認知バイアス大図鑑』(ニュートンプレス、2024年)

『一度読んだら忘れられない哲学の教科書』(SBクリエイティブ、2024年)

國重 潔志 神学委員長
イムマヌエル綜合伝道団

若い頃に論理学のクラスを受講しさまざまな種類の論理的誤りを学ぶ中で、勝手な思い込みを避けるために、牧師にとって論理学はとて役に立つことを教えられました。以後、機会あるごとに論理学を学び続け、また奨めてもいますが、分かりやすい論理学の入門書をなかなか見つけられません。

その一方、論理学が取り上げている人間の思考の誤りという問題について、心理学の分野でも興味深い分析が進められています。人や現象を認知していく際に起こしがちな誤りについて取り組む、認知バイアスの学びも牧師にとって重要だと思つた中で、最近とても分かりやすい書籍が出ました。科学雑誌のニュートン誌が編集発行した『認知バイアス大図鑑』というものです。図鑑と銘打っているように、とにかく写真が多く理解しやすいです。一項目について見開き2ページでまとめているのも好感がもてます。読みながら、なるほどと頷いたり、クスッと笑ったりします。この1冊で認知バイアスを理解しきるのとは不可能



ですが、その取っ掛かりとしては最適なものと思います。ぜひ図書館や書店で手に取ってみてください。

もう1冊ご紹介致します。私の専門は組織神学であり、神学校で神学を、また大学で倫理学を教える中で、哲学を学ぶことの大切さを受講生に語ります。哲学を学ばずとも牧師は

できるでしょうが、一般社会に福音を語っていく中で一般の思想の背景、または土台を見極めるために哲学は重要でしょう。受講生も哲学に興味をもってくれるのですが、手頃な哲学入門書をなかなか見つけられませんでした。難しすぎたり、平易であっても内容的に問題があったりという具合にです。ただ、最近、とても良い本に出会いました。これは哲学ユーチューバーであるネオ高等遊民氏が著された『一度読んだら絶対に忘れない哲学の教科書』です。とても分かりやすいもので、牧師の書棚にあると良い本だと理解しています。

「平和」について考える

児玉 智継 社会委員長
日本福音キリスト教会連合

二年前に世界に衝撃を与えたロシア・ウクライナ戦争は終わりが見えず、四年目への突入が現実となりつつあるように思われます。また、イスラエル・パレスチナ戦争も一年が経過しました。もちろん、二つの戦争の性質は大きく異なります。それでも、私たちは「二つの戦争」の時代の世界に生きていることは確かなことです。二つの戦争は、世界の分断を深め、第三次世界大戦への「危機的な状況」を招いていると言われてい

ます。最近、ダニー・ネフセタイ『イスラエル軍元兵士が語る非戦論』(集英社新書、2023年)という本を読みました。ダニー氏はこの本の中で非戦による平和を訴えています。「次世代に豊かな地球を引き渡すために、大人の責任として戦争をやめるにはどうしたらいいのか。そのカギになるのが、敵に攻められないよう『抑止力』を持つ、『武器による平和』という理屈からわたしたちが卒業することです。それは、決して非現実的でも『お花畑』のような考えでもなく、逆に極めて現実的であることを、皆さんに実感を持って受け止めてもらうために、わたしの体験を参考にしていただけたら幸いです。…『武力による平和』。これがウソであることは毎日のようにイスラエルで証明されて

いるのです。この現実の上に、2023年10月に起きたハマスとイスラエルの戦争もあります。他方、日本はどうでしょう。平和憲法のもと、憲法9条のもと、2023年まで戦後78年間も戦争はなかったではありませんか。歴史が証明しています。答えは出ているのです。憲法9条の理想を実現させましょう。」日本国憲法の平和主義の精神は、主イエスの平和思想と共通するものです。主イエスは「剣をもとに収めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。」(マタイ26:52)と言われました。憲法9条の理想を実現していくということは、終末的希望を抱きながら、平和の民として生きて行くことに他ならないと思います。

来年、日本は戦後80年を迎えます。信教の自由セミナーに、下川友也先生(元東京基督神学校校長、日本同盟基督教団・山の下福音教会牧師)を講師にお招きし、「戦後80年、日本の教会に語る」という趣旨のテーマで語っていただきます。日時は2025年1月24日(金)18:30-20:00、場所はお茶の水クリスチャンセンターの411号室になります。戦争の時代に、平和の民としての生き方を考える機会になればと願っています。

青年宣教ネットワーク報告

寺東 真也 青年委員
基督兄弟団



青年宣教ネットワーク2024は10月29日（火）から31日（木）まで、静岡県掛川市のつま恋リゾート彩の郷において行われました。参加者は各教団の青年担当者、または青年宣教に重荷を持っている者、超教派の青年宣教団体から各々1、2名ずつ参加していただきました。キャッチ・コピーは「友でとどのう～How to よりも、仲間との出会いを～」です。日本全国から総勢39名集まり、仲間となるために二泊三日、様々なプログラムの中で親交を深めました。



今回は、開催趣旨にもあるように、「方法論を学ぶ」のではないので、ネームバリューのある著名な講師を招くことはしませんでした。また、関係作りに焦点を置いているため、期間中、4、5人の小グループ（男女混合）を作成しました。また、その小グループ編成や部屋割りをする際、新たな出会いにつながるために、同じ団体や関係が深い人とは、あえて、別のグループや部屋になるように配慮されました。

1日目はオープニング集会でアイスブレイクを通して打ち解け、1回目のグループタイムにおいて自分のストーリー（救いの証、献身の証）を分かち合いました。夜の集会では、大竹護



大竹先生のメッセージ

先生がピリピ1章27節から2章5節のみことばを通して、ご自分の証とユーモアを交えつつ、青年宣教ネットワークの目指す、「良い関係の構築」について語って

くださいました。

2日目の午前、一つのみことば（ヨハネ21章15節から23節）をじっくり読み、宿泊部屋のメンバーで分かち合う時を持ちました。午後からは、グループごとにレクリエーションとして掛川市街へ繰り出しました。また、その際にフォトコンテストも同時開催し、幾つかのお題をグループのメンバーと撮影してもらうようにしました。夜は、各宣教団体の働きの紹介をしていただき、続いて午後にグループで撮った写真のフォトコンテスト発表会を行いました。代表者に写真のプレゼンテーションをしていただいたのですが、大いに盛り上がりました。



掛川市街へ繰り出した参加者

最終日は、全体の証会を行い、吉澤慎也 KGK 総主事が使徒18章1節から4節、1コリント2章1節から5節、使徒18章24節から26節より、パウロとアキラ・プリスキラ夫婦の出会い、交わりが宣教のうねりにつながったことから、今後の私たちのネットワークへの期待を語ってくださいました。

青年宣教ネットワークは今回で終わる事を考えていません。来月から約一年間、オンラインを活用して青年宣教ネットワークオンラインを二ヶ月に一度行い、違うテーマごとで集まり続け、更なるネットワークの充実と広がりを目指していく事を計画しています。



食事の交わりの時

アジア福音同盟 (AEA) 第 11 回総会報告

田辺 寿雄 国際渉外室長
イムマヌエル綜合伝道団



今年の8月7日(水)から11日(日)まで、モンゴルの首都ウランバートルにあるチングス・ハーンホテルを会場に、アジア福音同盟 (AEA) の第 11 回総会が開かれました。アジアを中心とする 23 개국と 20 の宣教団体から約 200 名が参加し、日本からは JEA 総主事の岩上敬人師、AEA 女性委員、家族・子ども委員の岩上真歩子師と AEA 理事の田辺、計 3 名が出席しました。迎えてくださったモンゴル福音同盟 (MEA) が現地教会の牧師や信徒の方々とともによく準備し、心を込めて私たち参加者をもてなしてくださいました。

初日の夜には、歓迎愛餐会とともに MEA 創立 25 周年記念式典が行われました。現地歌手の賛美や伝統的な踊り、モンゴルでの宣教の歴史の紹介、教会や政界のリーダー達のスピーチなど、盛りだくさんなプログラムでした。1990 年



総会会場の様子

の民主化運動以降、モンゴルで今も広がり続ける神の宣教の働きに参加者一同で賛美し、主に栄光を帰す時となりました。

今回の総会のテーマは”Disciple or Die”(「イエスの弟子か死か」)でした。これは、世界福音同盟 (WEA) が 2019 年総会で発表した「弟子づくりの 10 年」というビジョンに沿うもので、AEA でも 4 年前の総会以来、「全世代における弟子育成」を活動目的の中心に据えてきました。その大きなテーマのもと、4 回の

全体セッショングループ・ディスカッションを中心に二日目(8日)と三日目(9日)のプログラムが進められました。

8日(木)午後には、AEA 理事と各国福音同盟の代表者たちで総会の議事会が開かれ、2020～2024年総会期の総括とともに、次期総会期(2024～2028年)の理事を選ぶ投票も行われました。JEA からは新たに岩上師が推薦され、投票の結果、理事として選出されました。スリランカ、韓国、インドネシア、バングラディシュ、シンガポール、モンゴルからも理事が選ばれました。

9日(金)午後には、MEA からの要請により、MEA のリーダー方と私たち JEA の 3 名で懇親会を持つ機会が与えられました。和気あいあいとした雰囲気の中、これからの宣教協



モンゴル福音同盟の先生方との懇談

力の可能性について語り合う有意義な時となりました。

10日(土)はオフの日でした。バスと車に乗り合わせて「亀石 (Turtle Rock)」で有名なテルンジ国立公園や、広大な草原にそびえ立つチングス・ハーン騎馬像などに連れて行っていただきました。11日(日)は、参加者で幾つかのグループに分かれて教会の礼拝に出席をし、現地のクリスチャンと交わる貴重な時となりました。全日程を通じて、JEA がアジア諸教会 (AEA) の一員であることを実感する機会となりました。引き続き、アジアの教会を覚えてお祈り下さい。

JEA 総務局から

- ◆ JEA ニュース 63 号は 11 月末の発行となりました。クリスマス、そして新年を迎えようとしている皆さまに心から主の祝福をお祈りしております。
- ◆ 本年度より、基督兄弟団・横浜教会の湯浅翔先生が総務局のお手伝いに入ってくださいました。若い世代の先生が総務局に加わり、大きな力となっています。
- ◆ 岩上総主事は今年度で退任をする予定です。現在、JEA では新しい総主事の選定プロセスにあります。これからの引継ぎのために、また主から与えられた使命に JEA が変わることなく、進めるようにお祈りください。



日本福音同盟

心一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い (ピリピ 1:27)

JEA ニュース 63 号 発行・日本福音同盟 (JEA)
 発行者：水口 功 編集者：岩上敬人
 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC501
 TEL : 03-3295-1765 FAX : 03-3295-1933
 email : admin@jeanet.org
 郵便振替 : 00150-8-68442 (口座名義 : JEA)